

わずか三時間ほどの距離である台湾と日本は、政治的には仕方のない面があるにしろ、密接な文化交流を大切にキープしていかねばならないと思う。日台の交流を深めていくためにも、日本語教育を発展させ、台湾人が勉強した日本語で、自分の文化、言葉、価値観などを日本の友人、そして日本に伝えることができるような正確な日本語を習得してほしい。日本語教師は言わば、日本と台湾の掛け橋の人材を作り出すような存在である。風当たりの強い日台関係に強い掛け橋を作り出すためにも、自分自身にしかるべき見識を備える必要があるのではなかろうか。と私自身にも言い聞かせている。

フロアーからの報告

スウェーデンにおける日本研究の現状

高宇 ドルビーン 洋子

スウェーデンと日本との関係は古く、十七世紀にストックホルム貴族のフレドリック・コイエットがオランダ東インド会社の代表として長崎出島に出向していたこと、十八世紀にはリンネの弟子のツンペルグがオランダ人として鎖国下の日本で動植物の採集に勤しんだことや、ロシア人として日本と接触したラックスマンがスウェーデン系のフィンランド人だったことなどが知られている。しかしその後、明治期に他のヨーロッパ列強国が競って東アジアに関心を向けていた時、すでに大国としての地位を失っていたスウェーデンは山積する内政問題を抱え、その関心の対象を北ヨーロッパに留めていた。そのため二十世紀に入っても日本に対する関心はさほど大きくなかった。

これに対して、中国に関しては二十世紀の前半から主に学術的な活動が活発に行われた。スヴェン・ヘディンによるシルクロードの探検やバーナルド・カールグレーンの中国語音韻の研究、そして北京原人発掘の際の協力などにより、中国への関心は大いに高まった。

出足で立ち後れたスウェーデンの近代における日本学は、六十年代の後半から徐々に活性化していく様になった。現在ストックホルム、ヨテボリ、ルンドの三つの大学に日本語及び日本学を専攻できる日本語学科があり、ストックホルムとヨテボリには教授職がある。

スウェーデンでは大学生は通常一年の就業で40ポイントを履修できる。120ポイントを履修するとフィルカンド、160ポイントでフィルマークという称号を与えられる。どのような科目を集めかは学生が自主的に決められるが、大学院への入学資格は各学部または学科がそれぞれ規定している。法学部や経済学部などでは、日本の大学の様に履修する科目が決められているところもある。

前述した三つの日本学科では、以前は6コース（80ポイントまで）だったのを、近年8コース（120ポイントまで）に増やした。

また、この三つの日本学科には修士博士課程の大学院がある。大学院は修士課程が80ポイント、博士課程が160ポイントで、それぞれそのポイント数の半分が論文に当てられ、との半分はセミナーや専門知識の取得に当てられている。通常学部の学生が大学院に入学する際に希望専攻分野の専門知識取得のために他の学部学科での勉強を勧められることはよくあり、そこで得たポイントはある程度は

セミナー部分のポイントとして登録できる様になっている。

ここ十数年来スウェーデンは教育のあらゆる段階で改革を試みていて、その過程で以前はウップサラ、ルンド、ストックホルム、ヨテボリ、ウメオの五つだけだった総合大学（ユニバーシティ）という名称を単科大学（ヘーベスコーラ）に与えていっている。改革は大学のあらゆる活動部門に及んでいるが、取り分け日本学のあり方に大影響を及ぼしたのは、一九九八年に施行された大学院入学の改革であろう。

この改革は、他の欧米諸国と比べて長くなりがちな大学院課程を四年で修了させること、また大学院生の経済的地位を安定させるという主旨で、有給の大学院研究生など経済的基盤がはっきりしている者だけを大学院に入学させるなどを打ち出した。見た目には積極的な改革に見えるが、実際には有給研究生の数は人文系ではごく少なく、日本学科のような弱小学科が割り当てる人数が三四人ぐらいで、将来はこのような人数でセミナーを持たなくてはならないという危惧を抱かされている。

現在は一九九八年以前入学の大学院生がまだ在籍しているため、前述の三つの大学の日本学科の大学院では十五人弱の大学院生が日本学の研究に勤しんでいる。研究分野は文学、歴史、言語学、政治社会学など多岐に及んでいる。

しかしこの三つの日本学科以外でも日本研究は行われている。ヨテボリ商科大学とベックシュー大学経済学部にはそれぞれ国際経済学科に日本経済専攻科があり、またストックホルム商科大学には半独立機関として欧洲日本研究所があり、そこでは日本を中心に東南アジア経済の研究が行われている。

また人文学部以外でも、ヨテボリのシャルマーシュ工科大学とリンショーピング大学工学部には工学部の学生対象の産業経済学科に日本専攻コースがあり、ストックホルムにある王立工科大学では日本語及び日本事情の単科コースが毎学期開かれている。

しかし、日本学に従事するものの組織はスウェーデン国内ではなく、北欧全体の学術機関として北欧日本韓国研究学会が隔年に学会を開いているのみである。スウェーデンの日本研究者のほとんどはヨーロッパ日本学会かまたは各専門分野における日本の学会に所属して、個人的にネットワークを広げている。この点に関しては今後の発展が大いに望まれるところである。

イタリアにおける日本研究

カロリーナ・ネグリ

イタリアでは日本語および日本文学の学科が開設されている大学はローマ大学、ヴェネツィア大学、フィレンツェ大学、ミラノ大学、トリノ大学、レッチエ大学、カリアリ大学、そして、私が卒業したナポリ東洋大学です。

たとえば、国立ナポリ東洋大学は、東洋研究においてヨーロッパ最古の歴史を誇り、その創立は、1732年にまで遡ります。

1957年に国立大学となり、その後まもなく日本語学科が生まれました。現在では4学部を有し、イタリアにおける東洋研究の拠点となっています。また、イタリアにおいて唯一、イスラム研究の学部